

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

秋岡あや

【所属】(助成決定時)

一橋大学 大学院 社会学研究科 博士後期課程

【研究題目】

朝鮮人学徒兵出身者の口述記録の収集とその整理

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、朝鮮人学徒兵出身者の口述記録を収集し、その整理を行うことである。

朝鮮人学徒兵に関する研究は、これまで官憲史料、新聞、回顧録などの文献資料の分析を中心に行われてきた(姜徳相『朝鮮人学徒出陣』岩波書店、1997年など)。しかし、文献資料の限界を乗り越え、より豊かな歴史像を復元するためには、口述資料の収集と整理が不可欠であると考えられる。

本研究の具体的な内容は、次の2つである。第1に、韓国在住の元学徒兵の方々に聞き取り調査を行うこと、第2に、その録音記録を文字化して、資料集および論文として整理することである。元学徒兵の方々は1920年代の生まれであり、現在の年齢は90歳前後である。生存者がお元気なあいだに、できるかぎり多くのお話を伺い、記録として残していく必要があるだろう。

【研究の内容・方法】(800字程度)

1. 聞き取り調査

助成前・助成後を合わせて、計15名、計18回(全相燁氏、許相燾氏×2、崔在種氏、郭秉乙氏、金鳳虎氏、崔基鍾氏、全永鐸氏、林容睦氏、金鍾敏氏、黄敬シュン(馬+春)氏×2、丁春秀氏×2、文聖模氏、金桂元氏、朴洪根氏、金鍾旭氏)の聞き取り調査を行った。調査の方法は、次のとおりである。

- 1) 調査依頼—日本のわだつみ会(元日本人学徒兵の団体)と韓国の1・20同志会(元朝鮮人学徒兵の団体)の協力の下、元学徒兵の方々(忌避して徴用、徴兵された方も含む)に調査を依頼した。
- 2) 事前調査—語り手に関する著書、論文、史資料などを収集、整理して、質問用紙を作成した。
- 3) 聞き取り調査—語り手1名、聞き手1名(必要な場合、通訳などの調査協力者1名)で行った。場所は語り手の自宅や喫茶店、時間は2時間程度。語り手の許可を得て、会話を録音し、写真撮影を行った。質問内容は、姓名、生年月日、本籍、家族構成、学歴、動員過程、軍隊生活、帰還、解放後の活動歴、職歴など。関連する著書、論文、史資料のある場合には、それに関する質問も行った。

2. 録音記録の整理

助成後に、計5名、計20時間の録音記録を文字化し、うち1名の記録を論文として公表した。

- 1) 文字起こし—録音記録は文字に起こし、公開に関する交渉を行った(公開・限定公開・非公開)。
- 2) 資料集作成—公開および限定公開の許可を得た場合は、資料集として校正、印刷、製本した。録音記録と資料集は、わだつみ会のわだつみのこえ記念館に寄贈して保管していただくこととした(交渉済み)。
- 3) 論文執筆—録音記録のうち、研究史上重要な内容の含まれるものは、語り手の許可を得て、論文と

して公表した（秋岡あや・鈴木久美（共著）「元農耕勤務隊 黄敬シュン（馬+春）氏のインタビュー」『在日朝鮮人史研究』42号、2012年10月）。

【結論・考察】（400字程度）

朝鮮人学徒兵の研究は、文献資料の分析が主で、口述資料の活用が遅れている。本研究では、口述記録の収集と整理を通して、文献資料に現れない朝鮮人学徒兵の歴史を掘り起こすことを目的とした。

まず、聞き取り調査を行う際には、元学徒兵の方々の多様な経験を、できるかぎり個別具体的に記録するように努めた。動員形態は、学徒兵、徴兵、徴用、動員先は、朝鮮内、日本内、中国内部隊、解放後の職業は、教員、公務員、実業、軍人まで。可能なかぎり、多様な事例を記録するようにした。これらは、いずれも聞き取り調査でしか知り得ない内容であり、貴重な記録であるといえるだろう。

また、録音記録は資料集ないし論文として整理し、一般に活用できるようにした。朝鮮人学徒兵に対する学術的・社会的関心を高め、被害者および遺族の方々への調査・支援の進展に寄与できれば幸いである。